

すそのんと学ぶ

防災ハンドブック そなえて ぼうさい

知ろう避難所 ススメよう防災対策



平成30年度
女性目線等による避難所運営支援事業

裾野市

～はじめに～

私たちは、裾野市主催の講座『みんなで話そう！女性にやさしい避難所ライフ』を受講し、女性の目線でモデル避難所をつくったメンバーです。平成29年9月3日に、静岡県・南駿地域総合防災訓練の裾野市会場にて取り組みの成果を展示、説明しました。

この冊子は、私たちが学んだ「避難所」を、多くの方に知っていただき、避難所で生活しなくても済むための日頃の備え、そして避難所で生活する時には、自助・共助と思いやりの精神を持ち、みんなで助け合いながら過ごせるようにと願って作りました。

この冊子が、日頃から地域、家庭、そしてひとりひとりの防災対策の一助となれば幸いです。

平成30年度 防災関係冊子作成検討会



講座の様子

～もくじ～

1. 避難所ってどんなところ? 1
2. どうする？避難行動フロー 6
3. 避難所ライフの取り組み 8
4. 日頃からできる防災対策 19
5. モデル避難所運営資料 24
6. ぼうさいメモ 26
7. 用語の解説 28

みんなで話し合い、ひとりひとりが
災害に備えよう！



1. 避難所ってどんなところ？

避難所は、大地震など大きな災害が起きた時に、住んでいる家が壊れてしまうなど大きな被害を受け、自宅で生活できなくなってしまった方が「やむを得ず」生活する場所です。市指定の避難所は、学校などの公共施設ですが、避難所として利用される場合には、避難所で生活する人たちによる自主運営組織を立ち上げ、管理・運営していく必要があります。



Q.避難所は全員が行くところではないの？

A.自宅に戻りたくても、戻れない人が一時的に避難生活をする場所だよ。自宅に被害がなく、安全性で問題がないご家庭は、無理のない程度に「在宅生活継続(避難所生活しない)」をしよう。



災害が起きたからといって、必ずしも避難所で生活するものではありません。避難所は、高齢者から子ども、障がいのある方、外国人やペット連れなど、いろいろな人と一緒に生活をします。施設や備蓄資機材には限りがあり、過去の災害時では、避難所生活になじめず時には体調をくずしたり、ストレスを抱えた方もたくさんいました。



避難所での生活は、自宅での生活に比べ・・・

- ・不自由が多い ・家族以外の人と共同生活
- ・自宅や宿泊施設ではないので、いろいろなものが不足
- ・避難者同士での避難所運営に協力が必要

など、普段とは違った生活をしなければなりません。



知らなかったなあ。できることなら、自分の家で生活したいね。

そうだね！避難所に行かなくても済むような日頃からの備えをしておくことが、防災力の向上につながるのん！

→ P19 日頃からできる防災対策



Q.もし被災してお家で生活できなくなったら、すぐに避難所に入れるのかしら？

A.安全性が確認できるまでは入れないよ。

地震などの災害では、市の指定避難所であっても余震などによる二次災害を防ぐため、資格をもった人が「**応急危険度判定**」をするよ。建物が安全なら、避難所が開設されるよ。



※避難所開設までの間は、**一時避難地**などの屋外(オープンスペース)で、余震などに備えたり、安否確認や救出救助など、近所の方々と協力する必要があります。

→P6 **どうする？避難行動フロー** を確認しよう



Q.避難所にはどんなものがあるのかしら。
手ぶらでいいのかな？

A.自分たちで備蓄品を持ち込むことが原則だよ。物資の支給は、家や物を失ってしまった方などから優先的に配られるよ。日頃から、災害時に備え自分で必要なものは自分で備えよう！



行政や各区の防災倉庫には、防災用の資機材や食料などが保管されていますが、備蓄には限界があります。個人や各家庭が普段から使用している物品、食べ物や衣類、薬などが備蓄されているわけではありません。

特に女性や子ども、高齢者などは、それぞれに必要なものがあります。自分や家族のために、日頃から意識して備えていきましょう。

→ P19 「日頃からできる防災対策」



※支援物資が届くまでは、各自の備蓄品をはじめ、区、行政の備蓄品で過ごすことになります。

(支援物資は、発災後から概ね3日後には届くと想定されていますが、災害規模により異なります。)



Q.避難所の運営や生活する時は、女性や高齢者、支援が必要な人への配慮が必要と聞いたけど、どんなことに気を付けなければならないのかしら？

A.『避難所ライフの取り組み』(P8)を見てね。講座で学んだことを実際に避難所として展示したものがまとめられているよ。



様々な課題に、女性ならではの視点で解決策を考え、それを形にして展示しました。避難所の運営や生活は、誰もが不慣れですし、避難者のニーズも様々です。でも、これらを踏まえた避難所作りをすることで、結果として誰に対しても「やさしい避難所」になることに気づきました。



受講生によるモデル避難所の展示

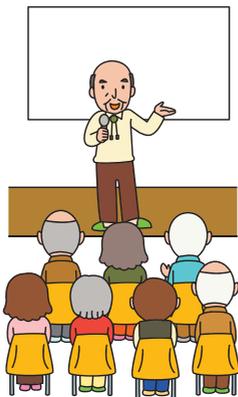


「みんなで話そう！女性にやさしい避難所ライフ」

全8回の連続講座(平成29年4月～平成29年8月)の中で、講師を招いての勉強会や、女性にやさしい避難所について、受講生同士が話し合い、モデル避難所を作成。平成29年9月3日(日)の総合防災訓練にて、モデル避難所の展示及び来場者への説明を実施。



「避難所で誰かが何とかしてくれる」という考えでは、スムーズな運営や自分の生活を取り戻すことは難しくなるよ。日頃から家庭や地域で災害への備えについて、年齢、性別などを越え、お互いが協力しあい、いざという時のために体制づくりをしていくことが大切だね！



気配り・目配り・思いやり
★要配慮者への配慮を！

要配慮者とは、**高齢者、障がいのある方、妊産婦、乳幼児、外国人、傷病者等**、防災施策において、特に配慮を必要とする方のことです。一般避難者とは別の区画での生活を要する方もいれば、みなさんと同じ場所にいたいという人もいます。

避難所で生活されている方々は、誰もが「被災者」です。避難所で共同生活をしていく際には、お互いに協力することと、思いやりの精神を持って生活していくことで、生活環境が改善され、結果として皆さんにとって過ごしやすい環境になります。



どうする？避難行動フロー

大地震発生！

自分の身を守る(子どもの身を守る)

※揺れがおさまるまでは、低くそのまま

- 屋内では⇒机などの下で落下物から保護
- 屋外では⇒建物から離れる、所持品で頭などを保護
- 子どもといたら⇒子どもの身を保護、移動時は手を離さない



火の始末(ガスの元栓止める)

出口の確保(避難経路確保)

靴などをはく(けが防止)

非常持ち出し品を手元に

情報収集

(テレビやラジオ・広報無線、携帯端末などで情報を得る)

近所での安否報告・確認(けが人や不明者の確認・対処)

各区自主防災会による活動
『裾野市自主防災組織活動の手引き』参照

各区等の一時避難地
しばらくは屋外(オープンスペース)で余震に備える

【家族で確認しておこう!】

災害時、家にいない場合などの連絡手段をあらかじめ確認しておきましょう。

→P26 ぼうさいメモ

支援物資はすぐには届かないのん。



ぐらっと大きな地震！！まずは自分の身や家族の安全を確保しましょう。余震や二次災害に備えることや、初期消火や救助活動、避難行動は、地域のみなさんと協力し助け合うことが大切です。発災後、在宅避難がどうしてもできない場合は、避難所へ向かうこととなります。このフローで、ご自身の状況により、避難行動を確認しましょう。

住めそうだ！

被害なし！

被害あるけど
住み続けられる

身寄りの家で
生活できる

在宅生活継続
(避難所に行かない)
早期の生活再建へ

みんなが目指すのはここ！

→P19 日頃からできる防災対策

お家は大丈夫？

生活ができない…

お家が全壊して住めない
お家や備蓄が焼失・流失

一人での生活が困難
(支援が必要な方など)

身を寄せる家もない

- ・原則、車での移動不可
 - ・電気ブレーカー遮断
 - ・非常持ち出し品を持参
- 区ごとに避難者を把握し移動
(支援が必要な人への対応)

近くの
広域避難地
(グラウンドなど)

- ・各区避難者の確認
- ・各区の状況報告

○避難所の建物の安全確認
(応急危険度判定)

- ・避難者による共同生活
- ・避難所運営に協力
- ・発災直後は持ち寄り品のみ

→P1 避難所ってどんなところ？

指定避難所など

- ・避難所受付

3. 避難所ライフの取り組み

～「配慮」と「思いやり」が、みんなにやさしい避難所に～

ここでは、避難所運営等において特に工夫・配慮した点を紹介します。一言に、「配慮」といっても、実際にどうすればいいの？こんな疑問に対し、話し合い学びながら解決策を具体的にモデル避難所として形にし、展示しました。今後の避難所運営の参考にさせていただき、いざという時には、「誰にでもやさしい避難所」を、みんな協力しながら運営できるようにしていきましょう。

①学びを形に！

8回の講座を通じ、防災のこと、避難所のこと、あるもので工夫することや普段の生活からできることなどを学び、モデル避難所の設置に向け準備をすすめました。



受講者同士による検討

②避難所レイアウトの決定

建物の間取りはいろいろあります。避難所ごとにレイアウトの決定が必要となります。本部位置や居住スペースだけではなく、共同生活をするうえで必要な場所や、誰もが困らない動線を意識した配慮が必要です。通路の確保は大切な要素です。

★モデル避難所こだわりポイント★

和室を女性更衣室・母子・障がいのある方などが使用する「プライベートスペース」にする。トイレ周りに「生理用品や紙おむつ等の物資」を配置して、使いやすくする。

本部係

【主な役割】

情報・会議・調整・管理運営・連絡



目安箱の設置

<検討したこと>

- 役割分担や情報の伝達収集方法
- 使えるスペースが足りない
 - ・避難所運営会議を開く場所が必要
 - ・子どもの遊び場がなく、ストレスがたまる
 - ・学校には行けなくても、勉強はさせてあげたい
 - ・みんなで集まってご飯を食べたい

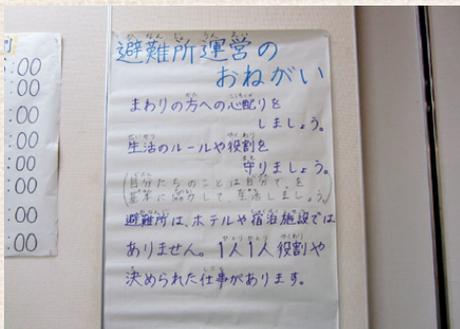


<工夫したこと>

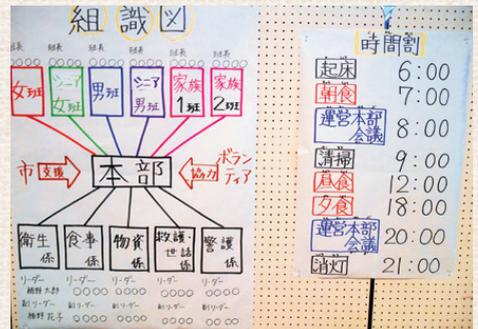
- ・性別・年齢にかたよらない役割分担にする
- ・多目的スペースに目安箱を設置し意見を伝えやすくする
- ・フリースペースを設定し、時間によって用途を分ける

フリースペースの時間配分

7時～9時	9時～11時	12時～14時	14時～17時	17時～20時
会議スペース	遊びスペース	食堂	勉強部屋	会議スペース



運営協力の掲示



体制や時間割の見える化

<ポイント>

避難所になる施設は、日常生活をする場所として作られてはいません。そのため、不自由なこともたくさんあります。（我慢のしすぎは禁物です！）みんなで話し合っ、よりよい方法を見つけましょう。

利用者同士の話し合いで、よりよい環境に変えられることもたくさんありそうですね！



衛生係

【主な役割】

洗濯・環境整備・衛生・清掃・ゴミ

<検討したこと>

○下着を干す場所がない

- ・多くの人に下着を見られるのは恥ずかしい
- ・過去の事例では、下着ドロボウがいたりして怖い
- ・下着は清潔なものを着たいので、洗わないわけにはいかない

○災害用トイレの使い方がわからない

- ・多くの人を使うので、正しい使い方で衛生を保ちたい
(水道が使えないこともあるため、汚物の処理方法は特に大切)



トイレの使い方の掲示を作成

<工夫したこと>

- ・テント小屋の中に洗濯紐を張り、女性専用の物干し場を作る
(周りからは見えにくいし、男の人が入って行ったら目立つ)
- ・トイレの使い方を、イラストを入れてわかりやすく掲示



沐浴専用ルームを設置



テントを利用し目線に配慮した物干し場



専用スペースには掲示も設置

道具も場所も、工夫しだいで必要なものに変えられるんだね！テントは温室効果もあるのん！



<ポイント>

避難所には必要な道具がすべて揃ってはいません。あるものを工夫して活用していくことが必要です。

【主な役割】

応急処置・救護受付・介助・子ども・心のケア・ペット

<検討したこと>

○限られた場所の中での配慮

- ・それぞれの専用スペースを作りたいが場所がない
(様々な目線への配慮)

○ペットスペースの確保

- ・生活スペースやペット同士のトラブルなどが心配

○物資以外に必要なものの把握と調達

- ・運営で必要なものがあるもので代用できないか

○けがや病気の方などの把握方法



新聞紙スリッパや毛布の簡易担架の展示

<工夫したこと>

- ・男女更衣室をトイレ内に設置
- ・要支援者等の居住スペースを別部屋にする
- ・担架や新聞紙スリッパなど、今あるもので必要なものを作る

- ・ペット用の間仕切りを設置(ペット同士のトラブルも避ける)
- ・けが人や病人の簡易カルテを作る(個人情報に配慮する)





ペットエリアの設置



男女のトイレ内に更衣室を設置

<ポイント>

様々な方との共同生活なので、目線も気になりストレスにつながります。あるものを工夫することで、代用品として活用することができます。限られた場所でも、ちょっと手を加えるだけで、みんなが使いやすい場所になります。

食事係

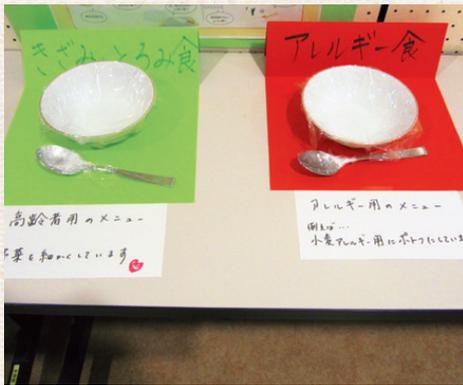
【主な役割】

場所・調達・役割分担・献立



<検討したこと>

- 配膳スペースが限られている
 - ・施設によってはスペースが狭く調理や配膳に苦慮
- 係の人数では同じ人が何回も作ることになり大変
 - ・メニューを考え作り、配膳、片づけ等、負担が大きい
- 高齢者の方やアレルギーをお持ちの方の把握と食事の分別
 - ・把握方法や、見分けやすい方法の検討



食事内容にも配慮



食事スケジュールの掲示

<工夫したこと>

- ・年代などに合わせた調理方法に配慮
- ・食に関する個人情報を集め、色テープで区別・明確化する
- ・アレルギー食などを普段作っているような人にも食事係に入ってもらおう
- ・器にラップをかけるなど、節水や手間のかからない工夫

見た目は同じ食事でも、色分けによる区別は誰にでもわかりやすいね！
ラップがあるとお皿洗いの手間だけでなく、衛生面でもよさそうだね。



<ポイント>

係が負担にならないよう、みんなで協力し合うことが大切です。また、食事の種類や時間などの掲示例のように、「見える化」することで、みんなが避難所の運営に対して意識を持ち、協力し合うことで、生活するうえでの安心感にもつながります。

物資係

【主な役割】

受取・仕分け・確認・配布・注文

<検討したこと>

- 下着やおむつなど衣類等についてサイズが様々である
- それぞれの物資が必要な人にどのように伝え渡すか
 - ・張り紙などで情報を伝えることは可能だが、サイズの受注整理については、人によっては他人に知られたくない人もいる。

<工夫したこと>

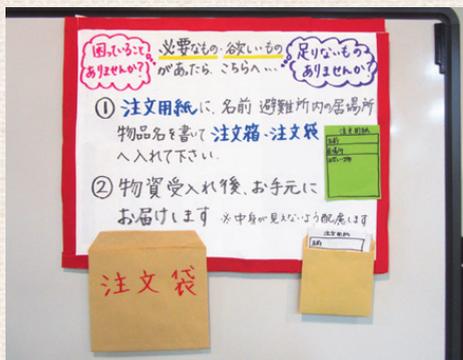
- ・生理用品等をサイズごと用意し、個人で持っていけるよう配慮
- ・下着やおむつのサイズ表を作成し掲示
- ・誰でも注文しやすいよう、注文用紙と注文袋を設置
- ・物資の受取や、利用のしやすい動線づくり



目線を気にせず個人がとりだせる工夫



男性用もサイズごと設置



注文袋の設置

<ポイント>

避難生活が長い期間になってしまった場合、自分の持ち出し品も不足してしまいます。「本当は欲しいけど・・・」と人の目を気にして、我慢してしまう方も。このような視点での配慮は、女性目線ならではの。

警護係

【主な役割】

見張り・パトロール・連携・啓発・トラブル対応

<検討したこと>

- 見回り人員の確保
 - ・男性だけでは見回りづらいこともある
- 犯罪防止の対策
 - ・避難所で起きる犯罪もある

<工夫したこと>

- ・男性1人、女性2人の組み合わせで見回り
- ・過去のトラブル例を掲示して、注意喚起を図る
- ・ローテーションを組んで避難者自身で見回り



警護人員の募集・ローテーション表



<ポイント>

男性1人と女性2人のチームをつくり、見回りをする事で、性別プライバシーにも配慮。被害を受けやすい小さな子どもや女性にも目が届きやすくなります。



女性が一緒に見回ってくれることで、女性の安心感につながるね。また、お互いできることを分担しあうことで、みんなの役に立つことができるね！



「女性にやさしいモデル避難所」は、学びと話し合いから、「配慮」と「思いやり」に気づき、女性だけでなく、「みんなにやさしい避難所」として形作られました。これらを参考に、みなさんも話し合いながら、「避難所」の運営を考え、実行できるようにしていきましょう。

4. 日頃からできる防災対策

★避難所へ行かなくても済むように！

避難所での生活は大変です。自宅で避難生活ができれば、負担やストレスは少なくなります。在宅避難で済むようにするためには、日頃からの家庭での防災対策をしていきましょう。



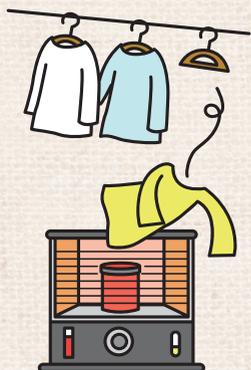
- ・ 阪神・淡路大震災では亡くなった方の8割以上は家屋の倒壊
- ・ ケガをした方の半数近くは、家具の転倒によるもの
- ・ 地震発生直後は、道路の損壊や交通渋滞により、食料や飲料水等の救援物資が十分に行き渡らない避難所もある。

これらのことから、各家庭、個人で、地震や大きな災害への備えをしておくことが非常に重要です。

★「防災力」は「生活力」

「防災」と聞くと、力仕事や男性がやることをイメージしてしまいがち。でも本当の防災対策は、日頃のみなさんの生活の中でできることばかり。「身近なことからコツコツ」とやっていきましょう。例えば・・・





○整理整頓

通路に物を置かない。高いところに重い物などを置かない。物を置く位置を決めておく。
(寝室は特に注意！)

- ⇒避難路の確保。暗くても動ける。けがの防止など。
- ⇒家具の固定、非常持ち出し品の確保。

○水や食料、消耗品のローリングストック

ちょっと多めの買い置きと、日常使用で順次新しいものに！

⇒使いながら備えることで、保存期限などにも対応。

⇒非常食料も普段から食べることで慣れる。

※家族で普段の生活やキャンプなどでも楽しみながら調理方法を学び実践。



講座での調理実習の様子

○お家の点検や避難経路の確認(子どもと日頃から歩く)

ガーデニングや洗濯をしながら、お家の外に危険が無いか確かめる。散歩やウォーキングしながら、家の周辺、避難路の確認をする

⇒家の危機対策(風水害にも対応)。

⇒体力向上も合わせてできる。



普段の生活の中の、ちょっとした家事や遊びも「防災」「減災」につながっています。今からできることを実践しましょう！

★自宅が災害に強くないと、避難もままならない

お家での防災対策の主なチェックポイント

- ・家屋の耐震診断と補強
- ・ブロック塀の点検と改善
- ・窓ガラスの飛散防止
- ・家具等の転倒、落下防止
- ・出火防止(初期消火対策)
- ・非常持出品の準備
- ・食料、飲料水の備蓄(7日分)

※普段使いのものとあわせて備える



☆家庭内での話し合い

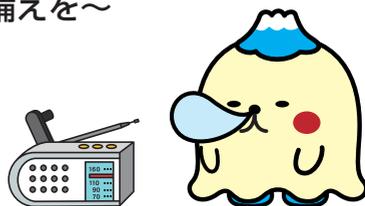
突然地震が発生した時に、誰が何をするか、非常用持ち出し品はどこに何があるのか、また、家族が離れ離れになった時にどこに集合するか、どんな連絡方法を用いるのか、あらかじめ決めておくなど、普段から話し合っ確認しておきましょう。日頃からの意識が、いざというときに役立ちます。

【ポイント】

服用している薬、お薬手帳やかかりつけの病院、介護支援員などを記載したのものも、外出時・非常時には持ち出せるように！

～寝ているときも備えを～

枕もとに、懐中電灯、メガネ、携帯電話、ラジオ、靴またはスリッパなどを置いておきましょう。



赤ちゃんや体の不自由な方、アレルギーをもつ子どもがいる家庭では、その人に必要な備蓄品を備えておく必要があります。(普段使っているものをすぐ持ち出せるようにしておきましょう)

○**赤ちゃんのいる家庭では・・・**

ミルク、哺乳びん、離乳食、スプーン、着替え、オムツ、清浄綿、おんぶ紐、ガーゼ、ビニール袋、石鹸 など



○**妊婦のいる家庭では・・・**

脱脂綿、ガーゼ、サラシ、T字帯、清浄綿、ティッシュ、母子手帳、石鹸、新生児用品 など



○**生活全般に支援が必要な高齢者や障がいのある方がいる家庭では・・・**

着替え、オムツ、ティッシュ、ガーゼ・ハンカチ、障害者手帳、補助具等の予備、服用薬、お薬手帳 など

○**アレルギーをもつ子供がいる家庭では・・・**

災害時など、緊急に子供が一人になってしまう場合に備え、他の人にアレルギー食材などの情報を正確に伝え、適切に対応してもらえるために、アレルギー症状や対応方法などの情報を記載したカードなどを作っておくとよいでしょう。

○**ペットのいる家庭では・・・**

ペット用品(ケージ、紐)、食事等7日分を用意しておきましょう。



～女性として備えておきたいもの～

日頃から使用しているものを備蓄し、いざというときには持ち出せるようにしておきましょう。（避難所などではサイズや数量など、ひとりひとりに合うものがあるとは限りません。）

また、お風呂も数日間はいれないことを考えると、衛生用品も備えておく必要があります。

生理用ナプキン、サニタリーショーツ、おりものシート、ビデ
※これらは巾着袋などに入れておくと、避難所等でも人目につきません。

そのほかに・・・

保湿クリーム、防犯ブザー、着替え（下着）
など

※それぞれご自身にあったものを用意しておきましょう。



メモ

※各家庭や区の自主防災会における備蓄品目にも、これらを備える必要があります。防災対策では、女性の意見を積極的に取り入れる環境づくりと、男女相互に理解、協力しながら避難生活を送ることが大切です。

5. モデル避難所運営資料

モデル避難所で実際に作った運営資料を掲載します。

避難者個人カード（太枠内に記入をお願いします。）

台帳 No.	名 前		連絡先	
	自宅の住所			
<p>特技 （職業、資格、子育て経験など。 「わたしはこんなことができます!」と いうことを書いてください。 係のわりふりの参考にします。）</p>				
<p>飲んでいる薬やかかりつけ医があれば 記入してください。薬やお医者さんの 手配の参考にします。</p>				
<p>アレルギーなどあれば教えてください。 食事や居住スペース決めの参考にしま す。</p>				
避難所本部記入欄	月	日	記入欄	記入者
	○月	△日	受付しました	すそのん
	○月	□日	物資係をお願いしました	阿部
	月	日		
	月	日		
	月	日		
	月	日		
	月	日		
	月	日		

避難所運営本部調整票(記入例)

日付 ○/△

衛生 班

記入者 富士 優子

必要な物品	数	備考	緊急の要望
トイレット ペーパー	12 ロール	備蓄残り3 ロール	避難所が汚い。掃除当番や掃除の回数を増やせませんか？
トイレ用洗剤	2		トイレの数が足りないので、穴を掘るなどの対応が必要かもしれません。

あなたの声を聞かせてください！

- ・こんなことに困っている、嫌なことがあった…
- ・誰かに相談したいけど、面とむかっては話しづらい…

ひとりで抱え込まず、誰かに伝えてみませんか。
あなたの悩みの解決が、みんなのためになるかも？

6. ぼうさいメモ

家族で話し合い、確認して控えておきましょう。
以下は、確認項目の例です。

・避難場所

一時避難地	広域避難地・指定避難所

・家族の安否連絡

誰に	連絡先(電話番号など)	備考(連絡方法など)

※普段の連絡方法が使えるとは限りません。災害伝言ダイヤルや、スマートフォンアプリ、公衆電話の使い方などを確認しながら、連絡手段をお互い確認し決めておきましょう。

・わたしのメモ

かかりつけ医やお薬、保険証番号など、それぞれ必要なものを確認しておこう。



お子さんと一緒に確認することで、家族の防災意識も高まるね！

家族などに直接連絡がとれないときは・・・

家族で利用方法などを確認しておきましょう



災害用伝言ダイヤル「171」

・録音するとき

171にダイヤル → 録音は[1] →
→ () - - → 伝言を入れる (30秒)

・再生するとき

171にダイヤル → 再生は[2] →
→ () - - → 伝言を聞く

※「() - -」は、自分の家や携帯電話などの電話番号を入力します。家族などで確認し、番号を書き込んでおきましょう。

※音声案内に従って操作しましょう。

携帯電話会社による災害用伝言板サービス

契約されている携帯電話、スマートフォンの会社の公式メニューや専用アプリから「災害用伝言板」にアクセス

↓
「災害用伝言板」を開く

伝言を[登録]する場合
「登録」を選択して伝言
を入力 (全角100文字)

伝言を[確認]する場合
「確認」を選択して相手の携帯
電話番号を入力し、伝言を確認

7. 用語の解説

在宅生活継続(在宅避難)

- ・大規模災害が起きても、自宅に被害がない、または軽微な被害で、安全性などに問題が無い場合に自宅で生活を続けること。



一時避難地

- ・地震発生後などに、一時的に余震などに備えやり過ごす場所。また近隣住民の安否の確認等をする場所。一般的に、近くの公園や広場などを区などで決めており、オープンスペース（屋外）である。

広域避難地

- ・地震災害などで、身の安全を確保するための広い場所として、市が指定している場所。自宅が被災し生活できない方などが、一時避難地から区ごとに移動し、指定避難所開設までの間に、余震や延焼火災その他の危険などに備える場所。

応急危険度判定

- ・余震などによる倒壊や落下物などによる二次災害を防止するため、地震により被災した建物を、応急危険度判定士が調査し、その建物が使用できるか否かを応急的に判定すること。

(建物の耐震性能により、応急危険度判定をせずに建物内に入れる場合もあります。)



～おわりに～

受講者のほとんどは、防災に関する知識などをあまり持っていませんでした。しかし、講座を通して、「防災に対する考え方」が大きく変わり、「日常生活からできるもの」「備えられるもの」だと考えられるようになりました。

同時に、防災は「男性だけがするもの」ではなく、「みんなの声を聞きながら力をあわせ、一人ひとりが自分のできることをする」ことが大切だと気づきました。

このモデル避難所は、「女性だけにやさしい」のではなく、「みんなにやさしい」避難所にしたいという思いで作りました。

この冊子をご覧になる皆様が、これまで気付かなかったことに「気づき」、家庭や地域の防災対策を考えるうえでのきっかけになれば、こんなに嬉しいことはありません。

平成30年度 防災関係冊子作成検討会

※本冊子は、平成29年度の「みんなで話そう！女性にやさしい避難所ライフ」講座を受講された方々が、「この学びと経験をみなさんにも広く知ってもらいたい」という思いから、検討会を重ね、市が冊子としてまとめました。

<参考文献>

- ・『避難所運営マニュアル』（静岡県）
- ・『避難生活の手引き』（静岡県）
- ・『男女共同参画の視点からの防災手引書』（静岡県）

○本冊子は市公式WEBサイトでもダウンロードできます！

[裾野市公式ウェブサイト](#)>くらし・手続き>消防・防災・防犯・交通安全>災害に備える

あわせてご覧ください！

『裾野市自主防災組織活動の手引き』（裾野市）

すそのんと学ぶ防災ハンドブック

そなえてぼうさい

知ろう避難所 ススメよう防災対策

(平成30年度 女性目線等による避難所運営支援事業)

発行日 平成31年3月

編集 防災関係冊子作成検討会

発行元 裾野市環境市民部危機管理課

